

山陽小野田市健康づくり推進協議会議事録

会議の種類	令和3年度第2回山陽小野田市健康づくり推進協議会		
日 時	令和3年10月19日(火) 18:30~20:15		
場 所	高千帆福祉会館2階会議室		
出席者 (19人)	山口ヤクルト販売株式会社	石 永 宗 昭	(委員)
	山陽小野田市連合女性会	井 上 幸 子	(委員)
	山口県精神保健福祉士協会	植 木 亨	(委員)
	山陽小野田市立山口東京理科大学	惠 谷 誠 司	(委員)
	山陽小野田市小学校校長会	大 庭 紀 之	(委員)
	山陽小野田市健康増進計画推進委員会	小 柳 朋 治	(委員)
	山口県看護協会小野田支部	笹 尾 千 春	(委員)
	山陽小野田市母子保健推進協議会	高 木 理 代	(委員)
	山陽小野田市自治会連合会	千々松正俊	(委員)
	一 般 公 募	中 村 千 佳 世	(委員)
	山口大学大学院医学系研究科	長 谷 亮 佑	(委員)
	山陽小野田市食生活改善推進協議会	半 矢 幸 子	(副会長)
	山陽小野田歯科医師会	平 木 雄 三 郎	(委員)
	山陽小野田医師会	廣 田 勝 弘	(会長)
	山陽小野田薬剤師会	松 垣 裕 明	(委員)
	山口県栄養士会	三 井 洋 子	(委員)
	山口県理学療法士会	三 戸 洋	(委員)
	一 般 公 募	吉 本 早 苗	(委員)
	山陽小野田市社会福祉協議会	流 田 幸 彦	(委員)
欠席者 (1人)	山陽小野田市民生児童委員協議会	榎 崎 八 由 美	(委員)
オブザーバー	山口県宇部健康福祉センター	山 中 知 子	
事務局	福祉部長 兼本裕子	福祉部次長 岩佐清彦	
	福祉部次長兼健康増進課長 尾山貴子	補佐兼健康増進係長 大海弘美	
	主査兼健康管理係長 林善行	健康増進係長(母子) 古谷直美	
	健康増進係長(食育) 加藤諭香江	健康増進係長(成人) 山本真由実	

	<p>1 福祉部長挨拶 2 議事 (1) 令和2年度保健事業実績について (事務局から説明)</p>
<p>会 長</p>	<p>事務局の説明について、質問等がある方はいるか。 特になし</p>
<p>会 長</p>	<p>全般的に見てコロナ禍でいろんな事業が縮小し実績も少なくなっているが、一部分で実績が伸びているものはニーズが高いものと思われるため、ぜひ進めていってほしい。</p>
	<p>(2) 令和4年度保健事業について ① 第2次健康増進計画進捗状況 ② がん検診事業 (事務局から説明)</p>
<p>事 務 局 会 長 委 員</p>	<p>事務局の説明について、御意見がある方はいるか。 自分も健診には行かないといけないと思いながら行ってないという実情がある。受診しない理由として、ネットでは「時間がない」「経済的余裕がない」「健康に自信がある」「受けてがんが見つかるのが怖い」となっていた。早期発見・早期治療が有効だということはわかっているが、行動に移せていないことが課題だと思う。病院には悪くなってから行くという感覚があるのかなと感じている。</p>
<p>委 員</p>	<p>自分も健診には行っていなかった。今回、自分が病気をしているいろんな検査をしたことで改めて健診受診が大切だと実感した。今までは健診を受診しているいろんなものがみつかるのが怖かった。これからはきちんと受けようと思う。実感したからこそ人に「健診に行こうね」と声をかけられるようになった。</p>
<p>会 長</p>	<p>事前にもらっている意見をみるとなかなか私事としてとらえられていない方が多いのかなあという意見が多いように思う。</p>
<p>委 員</p>	<p>当社社員 86 名は全員健診受診している。女性のがん検診も 55 人中 28 人が受診、大腸がん検診等も 70 人以上が受診しており問題ないと感じている。ヤクルトレディに関しては平成 26 年頃より、乳がん検診は無償、成人病健診も助成をして希望を募っているが無償の乳がんでも受診しない者もいる。理由を聞くと「若いから必要ない」という声がある。一方で、受診する理由としては健診を受けるにあたり仲間と集まってランチでも食べて帰ろうかという遊び感覚で受診をしている人もいる。そこにつながるまでには市にがんに関する研修をしてもらったり、がん検診の協力事業所になっていることもありお客様にがん検診を勧める立場にあるので、最近では 300 人中 140 人以上は受診している状況。</p>
<p>委 員</p>	<p>70 歳未満の受診率については世代ごとの分析が必要ではないかと思う。60 歳の方と 30 歳の方では、家族構成等も違う。また、休日診療の時と集団健診と個別の医療機関、平日なのか休日なのか等どこで受診率が上がっているかを分析すれば、おのずと力を入れていくところがわか</p>

会 事 務	長 局	<p>ってくるのではないか。</p> <p>世代ごとなどデータを出すことは可能なのか。</p> <p>個別健診と集団健診それぞれでどのくらい受診しているかについては、すぐに出せるものはあるが、休日診療での受診者数や個別と集団それぞれの平日と土日の受診者数については持っていない。今後、そういう視点でも分析をしていこうと思う。</p>
会 委	長 員	<p>来年度・再来年度に向けてぜひ分析して欲しい。</p> <p>職場では健診がある。30・40代の主婦はなかなか健診には行っていないのではないかという話を聞いた。理由としては、意識が低いことと日中は小さい子どもがいると行きにくい。土日で子どもをみてもらえる人がいる時や、病院を何か所も行かないといけないのは困難なため1か所で時間を短く全て受診できる体制や行くと何か特典があることや何かをしている間に受けられる、ついでに受診できる体制などがあればいいのではないか。</p>
委 委	員 員	<p>勤めていない人の受診について考えないといけないと思う。</p> <p>自分自身は仕事をしていたので受けており、習慣化して退職しても気になって受診するが、周囲では病院にかかっているため、何かあればすぐにみてもらえるから健診は受けないという声を聞いた。若い人の受診を勧めたいなら、託児をする等受けやすい体制を考える必要がある。</p>
会 委	長 員	<p>先ほど、特典の話が出たが、何かいいアイデアがある人はいないか。 (委員からは特に意見なし)</p>
会 委	長 員	<p>今も県では「誘ってがん検診」などの取組をしている。2人で受けると協力事業所から特典がもらえるが応募しないといけない。</p> <p>次に周知について市でもかなり工夫していると思うが、意見はないか。</p> <p>ホームページは関心がないと見にいかない。紙媒体がくれば、少しは見るかもしれないが多くの人は見えていない。この季節になると、かかりつけ医療機関に行くと、インフルエンザ予防接種の時期ですよと声をかけてくれる。同じようにかかりつけの病院から声をかけてもらえると効果的なのではないか。</p>
会 委	長 員	<p>何かいい方法、アイデアはないか。</p> <p>他県で職場の健診に行った際に同会場でがん検診の宣伝をしていた。早期発見・早期治療がどの程度有効なのかを具体的に示すと意識が上がるのではないか。</p>
会 委	長 員	<p>他市で学生ががん検診受診率向上の取組に関わっていたが、これについてはどうか。</p> <p>無料クーポン券の配布時に開封していないのではないかという意見があったので、封筒にリボンの模様をつけ当選品のような見た目にして送付した。また、ワーキングの場ではイエローカードやレッドカードのようにして送付すればいいといった意見もあった。結果は受診率としては上がらなかったために継続した取組にはなっていない。ただし、「がん検診を受けましょう」と周囲に勧める役割（アンバサダー）をしている人が、クーポンの対象年に初めて検診を受診し、がんが見つかって、そ</p>

委員	<p>の縁で現在はアンバサダーをやっているということがわかり、受診率に現れない効果が見られた。</p> <p>薬剤師会としては今までは積極的な取組はできていなかったが、偶然に今週になってから、県よりがん検診の周知に力を入れてほしいという依頼があった。まずは取組をやっている薬局とやっていない薬局を調べた。がん検診のポスターを貼っている薬局は29/48か所、ポスター+声かけをする薬局が同数程度、ポスター+検診受託医療機関のリストの貼りだし18/48薬局、リストを手にとって持って帰れるもしくは声かけまでする薬局が13/48薬局あることがわかった。周知として薬局ができること、取組を少しずつでも進めていくことと、早期発見したら何がいいのかということまで勧めていけるといいなと考えている。</p>
会長	<p>とても心強い御意見である。これからぜひ期待していきたい。</p> <p>自己負担が他市より少し高めという説明があったが理由は何か。</p>
事務局	<p>本市の自己負担額は基本的には委託料の3割と設定している。</p> <p>現在の自己負担額が委員のみなさんにとって高いと思われるか、妥当と思われるか。</p> <p>(委員からは特に意見なし)</p> <p>では、受診率をあげる取組として、成功事例を知っているか。</p> <p>(委員からは特に意見なし)</p> <p>大腸がん検診を郵送で実施したところ受診率がかなりあがったという取組。また、「今回受けたらまたクーポンをもらえますよ」と「行かないと次にクーポンはもらえませんよ」という表記で、後者の方が受診率があがったというデータがある。同じことでも表記によって差が出るため、工夫が必要。案内が来るということも動機づけにはなるだろう。日程や時間などの利用のしやすさ、どのような特典をつければ市民の目を引くかなど、成功事例を参考に今後のがん検診事業を組み立て実施していくことが大切と思うが、他に意見があるか。</p>
委員	<p>啓発では、小学校や中学校での啓発も大切と思うが、学校現場ではどうか。</p>
委員	<p>最近学校現場にもがん教育が入ってきている。小学校ではがんのリスクなどを保健の事業で取り組むようになってきている。これからがん教育を受けたこの子たちが大人になったときに少しずつがん検診の受診率にも影響が出てくるのではないか。</p>
会長	<p>がん教育を受けた子どもたちから親への影響にも期待したい。</p>
事務局	<p>③ 妊婦健康診査事業（歯科健診） (事務局から説明)</p>
会長	<p>事務局の説明について、御意見がある方はいるか。</p>
委員	<p>令和2年度から始まった事業ということだが、初年度で42.8%も受けられたんだというのが正直な感想。自院で受診されたのは全て自院の患者で初妊婦だった。今後、受診率を伸ばすということを考えると、2人目・3人目の妊娠時の周知に力を入れるということが必要なのでは</p>

<p>会 長</p> <p>委 員</p>	<p>ないか。また、流産や早産の原因に歯周病があるということがまだまだ知られていないのではないか。親の口腔の健康管理が大切で子どもへの影響を及ぼすということを啓蒙していくことが必要。また、本当に受診してほしい方が受診していないのではないかと思う。行けば指摘されることが分かっているから行かないのではないか。そういう方をいかに受診に結びつけるかが受診率をあげる一番のポイントではないか。</p> <p>歯科には悪くなってからかかるという意識の問題もあるのかなと感じた。また、親が健康な歯を持っているということは、その先に子どもの良い生活習慣が受け継がれていくということがあり、妊婦健診はこれから広がりのある健診だと思うので、広く進めて行くことを期待したい。妊婦健診はがん検診よりも比較的受診率をあげやすいのではないかと思う。ターゲットが妊婦と絞られており、妊婦健診には必ず行かれるので、主治医の医師と強い関係ができているため、産婦人科の医師に必ず受診するように伝えてもらえれば、妊婦は行くのではないか。受診後から出産までの口腔管理は歯科医でお願いしたいところなのではないか。</p>
<p>会 長</p>	<p>(3) その他</p> <p>何か議論したいことがあるか。 (委員からは特になし)</p>
<p>会 長</p> <p>オブザーバー</p>	<p>最後に本日、オブザーバーで出席の宇部健康福祉センター山中様から御助言をいただきたい。</p> <p>いろいろな意見交換をされる中で何か受診率の向上につながるものがあればいいと感じた。がん検診受診率は県の中でも最重要課題となっている。特に女性の胃がん・大腸がん・乳がん・子宮がんが全国の中でも最下位となっている。県でも啓発・情報の伝達方法・インセンティブなどで対策を検討しているところ。全国で受診率が高い自治体では案内の工夫等の周知に加え、個別の声かけ、訪問や声かけサポーターなどの取組を行っているところが多い。いろんな場面からの啓発、なぜ早期受診に意味があるのかという声が届くといいなと思った。9月はがん征圧月間、10月はやまぐちピンクリボン月間なので、皆様からも伝えていただけるとありがたい。休日・平日夜間に特に女性のがん検診は12月まで受診できる機会はあるが、なかなか働き盛り世代の方には情報が届かない現状はある。先ほどもあったが興味がない人はなかなかホームページは見に行かない。県も健幸アプリ等での周知はしているが、登録していない人には届かない。いろんな関係機関とつながっていければと考えている。また、がん教育は県でも現在、どんどん進めていくものとなっている。これからの未来を担う子どもには、検診は大事ということと、がんは悪いことではないということも伝えていければと考えている。また、歯の健康は全身の健康づくりにつながると言われている。産婦人科においても、歯を大事にすることが大切なんだという情報を届けてもらえれば、受診率の向上につながるのではないかと感じた。</p>

司 委 事 務 局	会 員 局	3 その他 委員より SOS 健康フェスタとかたつむりで行こう会スマイル部会のアンケートについての説明と協力の依頼を行った。 事務局より「スマイルエイジング強化月間」「健康で長生きのまちづくりフォーラム」「目指せ1万人。市民体操 SOS おきよう体操チャレンジ」について説明し、啓発への協力を依頼した。 閉会
-----------------------	-------------	---